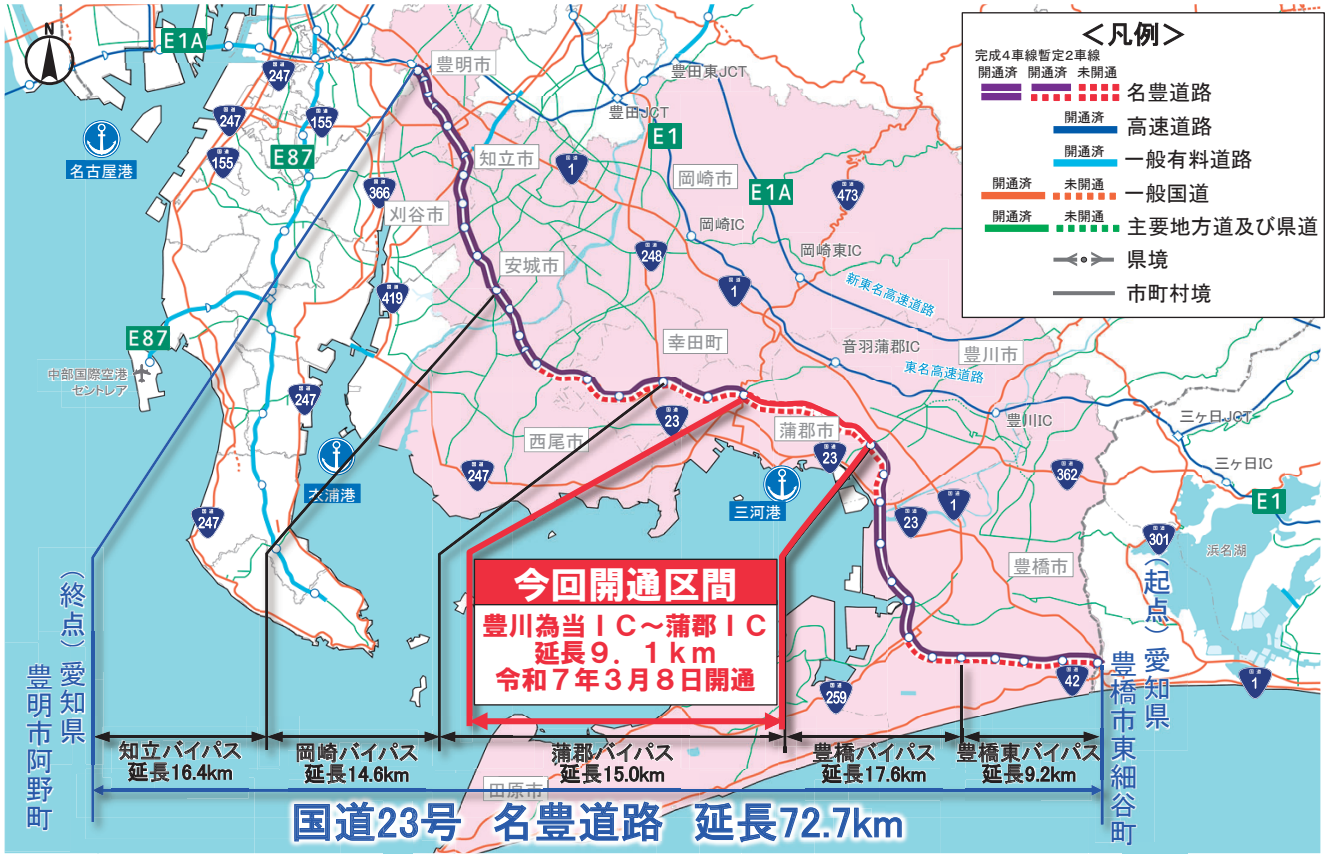
国道23号名豊道路の全線開通について
～ 半世紀の 夢、つながる ～

中部地方整備局　名四国道事務所

1．事業概要

国道 23 号名豊道路は、名古屋市と豊橋市を結ぶ延長 72.7km の高規格道路で、愛知県三河地域の 8 市 1 町を通過し、知立・岡崎・蒲郡・豊橋・豊橋東バイパスの 5 つのバイパスによって構成されています。戦後の高度経済成長期における交通需要の高まりによる国道 1 号の交通渋滞緩和や、自動車産業をはじめとしたものづくりが卓越する地域における工業団地と周辺の港湾・空港をつなぐネットワーク機能を担うことを目的として計画されました。本路線は昭和 47 年の知立バイパス（西中 IC ～豊明 IC 間：延長 7.0km）の事業化以降、地域の交通需要やネットワークの連続性などを考慮して、効率的かつ重点的に整備を進めてきました。これまでに全体の約 9 割にあたる延長 63.6km が開通しており、開通区間のうち約 5 割にあたる延長約 31km が 4 車線で完成しています。

名豊道路で唯一の未開通区間となっていた蒲郡バイパス（豊川為当 IC ～蒲郡 IC 間：延長 9.1km）において現在整備を推進しており、計画から約半世紀を経て、令和 7 年 3 月 8 日に全線開通予定となっています。



関係機関（10市1町）※
※名豊道路建設推進協議会に所属する自治体（豊橋市、岡崎市、豊川市、刈谷市、安城市、西尾市、蒲郡市、知立市、豊明市、田原市、幸田町）

2．全線開通により期待される整備効果

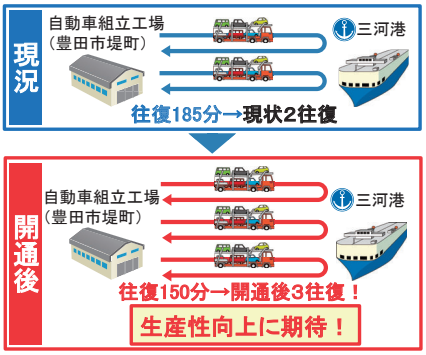
（1）物流効率化の支援

自動車生産拠点等の産業集積地と三河港を連絡する名豊道路は、企業活動をはじめとする多くの物流交通を担っています。名豊道路に直結する三河港は、完成自動車を含む機械類及び輸送用機器が輸出額の約 97％を占め、完成自動車の輸出台数が 12 年連続で全国第 2 位であり、全国を代表する完成自動車の輸出港となっています。

また、豊田市に位置する自動車組立工場からは、1 日あたり 400 便の完成車が名豊道路を利用して、輸送されています。

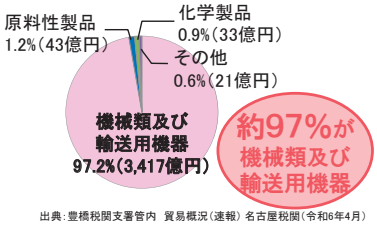
名豊道路が全線開通することで、自動車組立工場から三河港までの完成自動車の輸送時間が短縮し、1 台あたりの往復回数が増加することで、輸送効率の向上による生産性の向上が期待されています。

○名豊道路を利用する完成車輸送便数



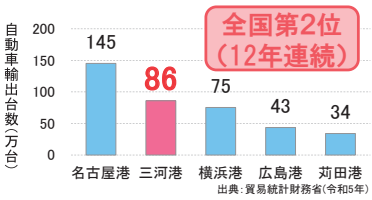
速度条件：（現況）ETC2.0プローブ情報（令和6年6月平日 昼間12時間平均旅行速度）
（開通後）既開通区間：ETC2.0プローブ情報（令和6年6月平日昼間12時間平均旅行速度）
未開通区間：現行の規制速度（60km/h）

■三河港の輸出額内訳



出典：豊橋税関支署管内　貿易概況（速報）名古屋税関（令和6年4月）

■港湾別自動車輸出台数順位



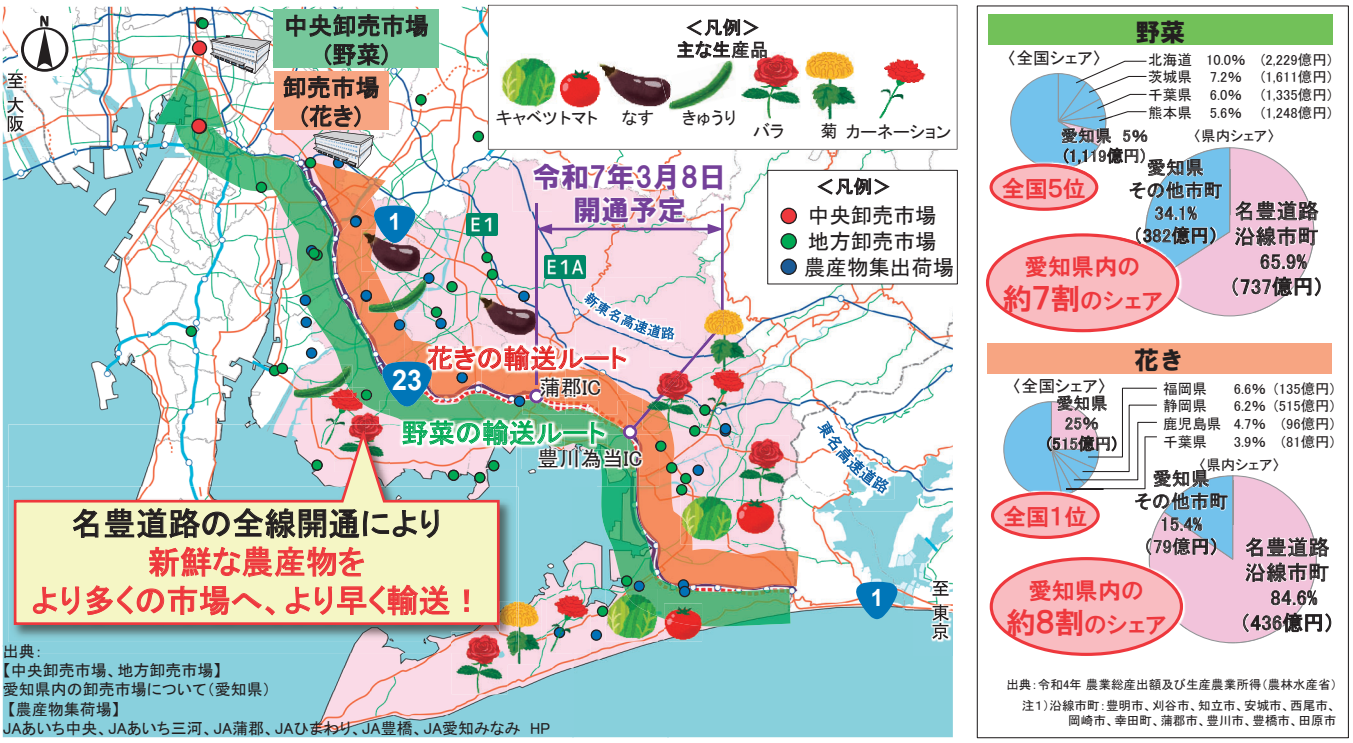
出典：貿易統計財務省（令和5年）

（2）地域産業の支援

愛知県は、野菜出荷額は全国第 5 位、花き産出額は全国第 1 位に位置するなど、全国的にも農業が盛んであり、名豊道路沿線市町は、愛知県内の野菜産出額の約 7 割、花き産出額の約 8 割を占めます。

名豊道路沿線には、多くの卸売市場や農産物出荷場が分布しており、全線開通により、新鮮な農産物をより早く市場に届けられるようになるなど、地域産業を支援します。

○名豊道路沿線市町の農産物集荷場及び卸売市場の分布



（3）地域間交流の促進

名豊道路沿線市町は、愛知県内有数の観光施設が多数立地しており、観光レクリエーション利用者数県内上位 10 市に、5 市がランクインするなど、観光産業が盛んな地域です。

また、プロバスケットボール「B.LEAGUE」に所属するチームも愛知県内に 4 チームが存在し、全国最多のチーム数であるなど、バスケット王国としても知られています。

名豊道路の全線開通により、名豊道路を軸とした観光周遊や、スポーツイベント等における地域間交流を支援します。

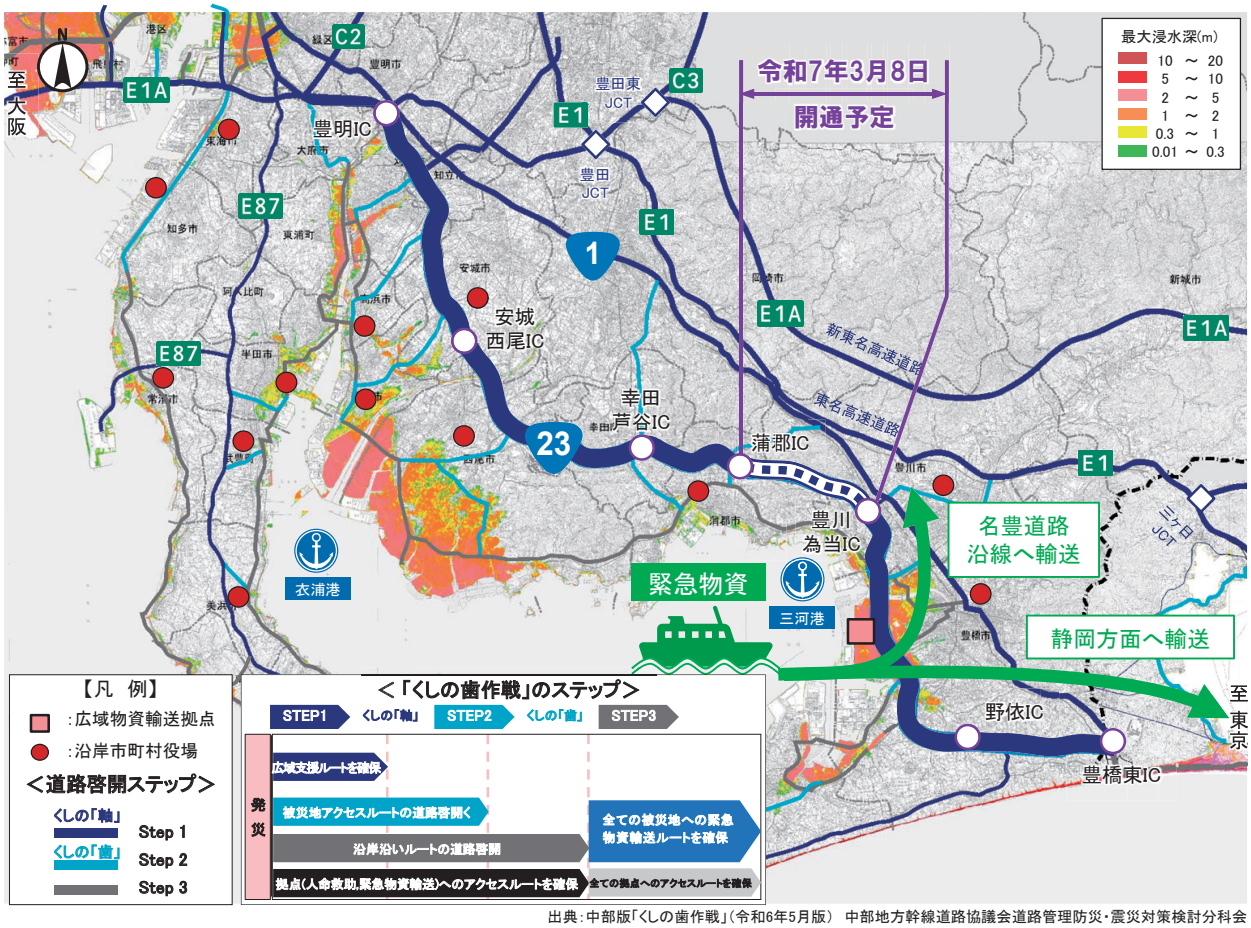
○名豊道路沿線の観光施設

（4）災害に強い道路機能の強化

三河地域の太平洋沿岸部は、東海・南海・東南海の３連動地震発生時に津波浸水被害や道路寸断が懸念されている地域です。名豊道路は沿岸部を迂回するよう位置しており、大規模災害発生時において、「広域支援ルート」を形成し、復旧・復興活動に寄与します。

浸水区域内では、津波被害を受けにくい高架構造で整備されており、被災時には三河地域沿岸部への救援・救助活動、人員・物資輸送を担う道路として、災害時の迅速な活動を支援します。

○災害時における名豊道路の役割



出典：中部版「くしの歯作戦」（令和6年5月版）　中部地方幹線道路協議会道路管理防災・震災対策検討分科会

3．開通へ向けた機運醸成と広報の取り組み

国道23号名豊道路の事業目的や全線開通による効果を広く周知し、開通に向けた機運を醸成し、名豊道路を多くの方に利用していただくことでストック効果の最大化を図ることを目的として、名豊道路沿線自治体・沿線企業等と連携した広報に取り組みました。

（1）蒲郡バイパス PR プロジェクト

名豊道路における最後の開通区間となる蒲郡バイパスに着目し、開通の効果や地域へのメリット、建設業の魅力をより多くの人に知っていただくため、中部建設青年会議愛知県支部が主体となり、沿線の豊川市・蒲郡市の協力のもと『蒲郡バイパス PR プロジェクト』を立ち上げました。

本プロジェクトでは、蒲郡バイパスの工事現場における現場見学会、「高校生×土木」フォトコン企画の実施、名豊道路の歴史や事業目的を PR するポスター・動画の制作等を実施しています。

写真 1：現場見学会、「高校生×土木」フォトコンポスター

写真 2：蒲郡バイパス PR ポスター・PR 動画

（2）沿線自治体等との連携

愛知県及び名豊道路沿線の 10 市 1 町等と連携し、東三河地域最大級のお祭りである「豊橋まつり」やプロバスケットボール「B.LEAGUE」が地元市民を招待して試合を行う”市民 DAY”等の地域イベント等における広報機会を創出しました。また、沿線自治体首長をはじめ、企業や地元住民の方々から開通への期待の声を頂き動画を作成しました。

沿線自治体と連携した広報に取り組むことで、道路だけではなく、地域の拠点利用の促進につながると考えています。さらに、中部地方整備局管内で令和 7 年夏頃までに開通する事業について、「つながる中部 42.6」と銘打ち、関係者間で協力した広報を実施しました。

写真 3：「豊橋まつり」での PR 実施状況

写真 4：「B.LEAGUE」試合会場での PR 実施状況

写真 5：全線開通への期待の声を集めた動画

4．おわりに

国道 23 号名豊道路は、物流･地域産業の支援、地域間交流の促進、災害に強い道路機能の確保などの様々なストック効果が見込まれる事業です。名四国道事務所単独ではなく、沿線自治体・企業等と連携して取り組むことで、多方面への広報が可能となり、地域拠点や道路の利用促進による地域活性化が図られることでストック効果の最大化につながるものと考えます。

今回の開通により、名豊道路が全線開通するため、開通後の道路の使われ方や整備効果の発現状況などの調査・分析を着実に進めてまいります。